

分団研修を行う上で何が重要になると考えているのか

各分団における主体性および安全管理体制の充実が重要と捉えている



なかむら けんたろう
中村 健太郎
国民民主党田原市議団



消防団の訓練について

- 問** 新たな訓練を1年間実施した評価は。
- 答** 参加人数の限られる全体での研修から各分団単位の研修に変更したことで、より多くの消防団員が参加でき、以前と比べ、より多くの消防団員へ知識や技術の共有が図られた。また、消防本部からさまざまな実災害を想定した訓練指導を受ける機会も増えたことで、消防職員との関係強化にもつながったと感じている。
- 問** 今後も分団研修を充実させていくために、分団研修を行う上で何が重要になると考えているのか。
- 答** 今後の分団研修においては、各分団における主体性および安全管理体制の充実の2点が重要と捉えている。



道路の維持管理について

- 問** 道路の点検状況は。
- 答** 週3回道路パトロール員による巡回監視のほか、ドライブレコーダーを用いた道路点検A Iシステムを導入し、市域全体の道路の損傷状況を把握している。
- 問** I T技術等を活用した今後の道路維持管理の考えは。
- 答** 技術の進歩により道路の維持管理を効率的に行うことができるようになるため、引き続き情報収集に努め、必要性に応じて導入を検討していく。
- 問** 公式L I N Eを活用した住民参加型の道路損傷箇所通報システムを、本市でも取り入れる考えがあるのか。
- 答** 国土交通省により、道路緊急ダイヤルのL I N Eアプリ版が導入され、全国で利用可能となった。これにより、市民が本市の道路で発見したポットホールや段差、落下物などの情報を写真や位置情報と併せ、通報することができるようになっていたため、今後はこのシステムをしっかりとPRし、利用拡大を図っていく。

- 問** 自己水源でPFASが暫定目標値を上回って検出された場合の対応は。
- 答** 仕切弁の操作によって配水管から切り離し、県水のみの配水とすることで安全性を確保する。
- 問** 県営水道の安全性についての考えは。
- 答** 県営水道では、令和6年度以降、毎月、浄水場のPFASの監視を行っている。また、県の浄水場にはPFAS除去に有効とされる活性炭処理設備があり、安全な水道水が供給されると聞いている。

- 問** 上下水道事業の運営について
- 問** 水道水のPFAS（※）の検査、検出状況は。
- 答** 法令に定めのある水質基準等に基づき、毎年度水質検査計画を策定し、水質検査を実施している。本市の水道水の大部分を占める県営水道ではPFASが検出されたことはなく、自己水源においては暫定目標値を下回っている。

県営水道で未検出、自己水源は暫定目標値以下である

水道水のPFASの検出状況は



ふるかわ ゆきひろ
古川 幸宏
自由民主党田原市議団

